

令和3年度 青梅市立第一中学校 学校経営計画

統括校長 儘田 文雄

- ◆ 本校の使命は、生徒一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を培い、社会の形成者として必要な資質・能力を養うことにある。
- ◆ 各人が社会の変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら未来を切り開いていけるよう、青梅市教育委員会および東京都教育委員会の教育目標・基本方針に基づき、学校教育目標（以下、「教育目標」という。）の実現を図る。

1 経営の基本理念

(1) 目標への意思統合、コミュニケーションの活性化

教育目標の達成に向け、教職員の意思を統合するための体制の強化と運営の工夫を不断に行う。

(2) 「言葉の力」を中核とした学校づくり

言葉のもつ「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」を、教師と生徒が共に高め、生かすことにより、諸課題の解決に主体的に取り組む。

2 教育目標およびその実現を支える校訓等

1

(1) 教育目標

国際性豊かなよりよい社会人を目指して

— 自ら学ぼう — 感謝と思いやりの心をもとう — 理想の実現に努めよう

(2) 校訓

たゆまず、あせらず、おこたらず — 目標・計画・勤勉 —

(3) 本校が目指す国際性

本校が目指す国際性は、外国語によるコミュニケーションはもとより、次の要素から成る。

- ア 互いが同じ人類の仲間であるという自覚をもち、誰に対しても偏見や差別意識をもつことなく、公正、公平に接すること。
- イ 我が国や郷土の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもつとともに、他国の伝統・文化を理解して尊重し、互いに文化交流を行うこと。
- ウ 様々なものの見方や価値観があることを踏まえ、物事を多様な観点から論理的に考察し、自分の考えを根拠に基づく説得力をもった言葉で表現すること。

(4) 教育目標につながる学年目標

<自ら学ぼう>

第1学年 自ら考え、判断し、分かりやすく表現しよう

第2学年 物事を多様な観点から考察し、自らの考えを広げ深めよう

第3学年 自ら課題を設定し、その解決に向けて粘り強く学ぼう

<感謝と思いやりの心をもとう>

第1学年 感謝や思いやりの気持ちを言葉にして伝えよう

第2学年 相手の立場に立って接し、心の絆を強めよう

第3学年 周囲の人の善意に応えるとともに、助け合い、支え合おう

<理想の実現に努めよう>

第1学年 自分の特徴を知り、よい点を伸ばそう

第2学年 様々な職業について知ろう

第3学年 自ら進路を切り拓こう

3 目指す生徒像および育成する主な資質・能力

(1) 主体的に学ぶ生徒……………<教育目標 自ら学ぼう>

- ◆ 「自ら学ぶ」とは、自主的な学びはもとより、主体的な学びを指す。
- ◆ 自主的と主体的とは異なる。自主的は、なすべきことを人に言われる前に率先して行うこと。主体的は、なすべきことを自分の意志や判断で決めて行うこと。両者を分けるのは自己決定の有無である。
- ◆ 主体的に学ぶとは、生徒が学習の対象を客観的に捉え、複数の選択肢の中から、自分なりの根拠に基づいて、学習の課題や内容、方法等を選択・決定しながら学ぶことである。日々の授業において、こうした学びの場と機会を計画的に設定し、実施していく。

2

<育成する主な資質・能力>

- ア 主体的に学習に取り組む態度
- イ 自己の感情や行動を統制する力
- ウ 自らの思考の過程等を客観的に捉える力
- エ 全ての学習の基盤となる諸能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）

(2) 励まし合い、支え合う生徒……………<教育目標 感謝と思いやりの心をもとう>

- ◆ 感謝と思いやりは、互いの存在を丸ごと肯定的に受け止め、共にかけがえのない人間であることの自覚から生まれる。
- ◆ 思いやりの心は、他の人の立場を尊重しながら親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。一方、他者の思いやりに触れ、素直に受け止めるとき、人は自ずと感謝の念を抱く。
- ◆ 生徒が助け合いながら何かを達成していくような機会を多く設定するとともに、日常生活において「どうしたの?」、「大丈夫?」、「ありがとう」といった言葉が飛び交うような雰囲気を醸成していく。

<育成する主な資質・能力>

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性

(3) 自己実現に努める生徒……………<教育目標 理想の実現に努めよう>

- ◆ 生徒の自己実現の過程で大きな役割を果たすのが、夢や理想である。中学生の時期に描く理想が、その後の人生に大きな意味をもつことを踏まえ、彼らの描く夢や理想を教師が温かく受け止め、その実現に近付けるよう励ましていく。
- ◆ また、生徒の自己実現を生涯にわたって支え続けるのは、本校の校訓「たゆまず、あせらず、おこたらず」の精神である。各精神の基盤を成す「計画・目標・勤勉」を全教育活動の推進に当たり重視していく。

<育成する主な資質・能力>

ア 人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等

イ 自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動、ストレスマネジメント等

ウ 課題対応能力

情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

エ キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

4 目指す教師像

(1) 共に学び続ける教師

- ◆ 求め続け、共に学び続ける教師の姿。これこそが、生徒の心を動かし、生徒を変え、保護者の信頼を呼び、地域社会の共感を誘うと確信する。
- ◆ 各教科等においては、生徒たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにすることが重要である。
- ◆ そのため、教師は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を通して共に学び続けることで教育活動の質を高めるとともに、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを進め、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出していく。

(2) 師弟同行・率先垂範する教師

- ◆ 師弟同行とは、教師が生徒に寄り添い、共に歩むことであり、重視する理由は二つある。
- ◆ 一つは、生徒のよさを引き出し、伸ばすためである。教師が生徒に温かい眼差しを向け、よさや進歩の状況を認め励ますとき、生徒の自尊感情と活動に対する意欲は更に高まる。
- ◆ もう一つは、教師が生徒から学んだことを、教育活動の一層の充実につなげるためである。全ての教育活動の評価は、生徒を介して行われます。教師は、生徒の学ぶ姿や変容から指導改善のヒントを得る。

- ◆ 新学習指導要領の下、生徒が「主体的に学習に取り組む態度」を的確に評価することが求められている。生徒が学ぶ過程で試行錯誤し、自分の学びを調整しようとしている姿を見逃さず、肯定的な評価を下すとともに的確な助言を行えるよう、校内研究を通して共に学び続けていく。
- ◆ 「寝ていて人を起こすな」の言葉どおり、例えば、服装、挨拶、整理整頓、チャイム着席などに係る指導は、教師自身の在り様に深くかかわる。日々の清掃活動や奉仕活動等の指導に当たっては、共に行動しながら生徒一人一人の労を認め励ましていく。

(3) 生徒のよさや可能性を引き出し伸ばす教師

- ◆ 教育とは文字どおり「教え育てる」ことである。education(教育)の語源はラテン語の educereで「引き出す」という意味がある。教師は、生徒の自己成長力を信じ、話をじっくり聞いて考えを引き出し、伸ばすことが重要である。
- ◆ 育てる上で大切なことの一つに、相手の意志、主体性が発揮される環境をいかに作り出すか、ということがある。誠意をもって生徒の話を聞き、心温まる関わりの中で自信を与え、生き生き、伸び伸びとした活動を導き出していく。

5 目指す学校像

(1) 生徒が学ぶ喜びと自信をもてる学校

- ◆ 各教科で「力の付く授業」、「学びがいのある授業」を行い、確かな学力の定着を図る。また、全教育活動を「生徒が自分のよさに気づき、伸ばす機会」と捉え、言葉と体験を重視した学習指導を全校で行う。
- ◆ さらに、生徒が「自分は人のためになっている」と実感できる教育活動を、教育課程により多く設定し、着実に推進する。その際、他者との比較ではなく、生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価する体制を学校全体で築いていく。

(2) 保護者・地域の方から信頼される学校

- ◆ 教師が教育公務員としての服務規律を順守することはもとより、日頃から家庭・地域に学校の教育活動の計画および成果と課題を伝えるとともに、要望を的確に把握し、迅速に対応する。
- ◆ 保護者の最も切実な要望は、我が子を安心して通わせることができることと、希望する進路を切り拓く学力の保障である。このこと十分に踏まえ、学級、学年、教科の経営に当たる。

(3) 「チーム」としての力を生かし、主体的に課題を解決する学校

- ◆ 現在、学校には、学力向上、いじめ・不登校等の生活指導上の問題への対応、特別支援教育の充実をはじめ様々な課題がある。こうした諸課題に対応するため、協働体制を確立し、「チーム」としての対応力を高めることで、学校・家庭・地域との連携協力を一層強める。
- ◆ 協働体制の確立に当たっては「目標への意思の統合」と「コミュニケーションの活性化」を図り、「チーム」として対応する際には、「目標共有」、「役割分担」、「調整・統合」の三つの機能を重視した組織運営を行う。

6 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間

ア 各教科

(ア) 育成する主な資質・能力

主体的に学習に取り組む態度、自己の感情や行動を統制する力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力、全ての学習の基盤となる諸能力、現代的な諸課題に対応する諸能力

(イ) 重点事項

- ① 学習状況調査等の結果を踏まえた学力向上推進プランの推進
- ② 東京方式による数学の習熟度別指導および外国語の少人数・習熟度別指導
- ③ 年3回の「授業PRカード」および「授業指針」を活用した授業観察・面接の実施
- ④ 校内研究「ICTを効果的に活用した授業づくり」を通した一人一台端末の活用促進
- ⑤ オリンピック・パラリンピック教育を通した体育・健康に関する指導および体力テストの実施
- ⑥ 東京都人権施策推進指針が示す人権課題に係る人権教育プログラムを活用した指導
- ⑦ 外国語科における小中接続単元の設定等による、小中の円滑な接続
- ⑧ 「家庭学習ノート」を活用した家庭学習の促進

イ 特別の教科道徳

(ア) 育成する主な資質・能力

自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性

(イ) 目指す生徒像および重点内容項目

- ◆ 誰に対しても偏見や差別をもつことなく、公正、公平に接する生徒
C(11) 公正、公平、社会正義
- ◆ 我が国や郷土の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもつとともに、他国の伝統・文化を理解して尊重し、互いに文化交流を行う生徒
C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
C(18) 国際理解、国際貢献
- ◆ 物事を多様な観点から論理的に考察し、自分の考えを根拠にもとづいて説得力をもった言葉で表現する生徒
A(5) 真理の探究、創造 B(11) 相互理解、寛容

(ウ) 重点事項

- ① 全体計画別葉の活用による重点内容項目に係る指導
- ② 「青梅市立小・中学校 道徳科の授業指針」の活用による授業改善および道徳授業地区公開講座の実施
- ③ 教科書別冊「道徳ノート」等の活用による、妥当性・信頼性のある学習評価
- ④ 学校・家庭・地域で取り組む「3ない」運動
- ⑤ 家庭および小学校と連携した「望ましい習慣の形成」
- ⑥ 「命の週間」における「いじめ問題」「生命尊重」をテーマとした授業

ウ 総合的な学習の時間

(ア) 目標

郷土や我が国の伝統・文化、防災、勤労に関わる探究的な学習を通して、総合的に追究する方法を身に付け、そこに潜む問題を主体的に見出し、多様な他者と協力して問題を解決するとともに、よりよい社会人としての基礎を育む。

(イ) 探究課題の解決を通して育成する主な資質・能力

[知識および技能]

- ① 青梅市、東京都、日本の伝統・文化に関わること。(青梅学のすすめ等)
- ② 身近な産業・職業に関わること。 ○ 防災および救命に関すること。
- ③ 考えるための技法
 - ・順序付ける。 ・比較する。 ・分類する。 ・関連付ける。 ・多面的に見る
 - ・多角的に見る。 ・理由付ける。 ・見通す。 ・具体化する。 ・抽象化する。
 - ・構造化する。

[思考力、判断力、表現力等]

- ① 課題の設定
 - ・問題状況の中から課題を発見し設定する。
 - ・解決の方法や手段を考え、見通しをもって計画を立てる。
- ② 情報の収集
 - ・情報収集の手段を選択する。 ・必要な情報を収集し、蓄積する。
- ③ 情報の整理・分析
 - ・情報を比較、分類、関連付けるなどして整理する。 ・情報を多面的・多角的に分析する。
- ④ まとめ・表現
 - ・相手や目的に応じて、自分の考えを分かりやすくまとめ表現する。
 - ・学習の進め方等を振り返り、今後の学習や生活に生かそうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

- ① 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。
- ② 互いの特徴を生かし、協働して課題を解決する。
- ③ よりよい社会を創り出そうとする。
- ④ 自分のよさや適性についてより理解する。
- ⑤ 自己の将来を展望し、夢や希望をもつ。

(ウ) 重点事項

- ① 全体テーマ 「よりよい社会人になるために」
学年テーマ 1年「郷土に生きる」、2年「社会に生きる」、3年「未来に生きる」
- ② 言葉と体験との相互作用の促進による学習の質の向上
- ③ 各教科等との関連的な学習

エ 特別活動

(ア) 育成する主な資質・能力

人間関係形成能力、自治的能力および自己理解・自己管理能力

(イ) 重点項目

<学級活動>

- ① 一人一人が学級に貢献し役立っている実感をもてる組織づくり
- ② キャリア形成と自己実現に関する指導

<生徒会活動>

- ① 自治的活動を充実させるため、次の四段階を重視した指導を行う。
 - ・ 学校生活をよりよくするための視点を探る。
 - ・ 活動内容等について話し合い、決定する。
 - ・ 役割を分担し、協働して実践する。
 - ・ 活動を振り返り、評価・改善する。

<学校行事>

- ① 生徒の自主的、実践的な活動を助長する、実行委員会活動の充実
- ② 各教科、道徳および総合的な学習の時間などの指導との関連的な指導の推進

(2) 特色ある教育活動

- ア 「言葉の力」を中核とした学校づくり
- イ 小中一貫の取組として進める「望ましい習慣の形成」
- ウ 「3ない」運動による、学校・家庭・地域が連携した道徳教育
- エ 「学びと心の育成事業」を活用した、地域人材等を講師とする各種体験活動
○地域から学ぶ日 ○囃子体験活動 ○パラバレーボールを通した障害者との交流体験

(3) 生活指導

- ア 青梅市いじめの防止に関する条例および本校のいじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止・早期発見・早期対応
- イ 継続している不登校の解消および新たな不登校を生まない取組
- ウ 「SNS—中ルール」による情報モラル教育
- エ 「デイリーライフ」を活用した生徒理解の深化および信頼関係の構築
- オ 「いつでも誰にでも相談週間」の設定（長期休業前後）および「SOSの出し方に関する教育」の推進
- カ 地震や大雨、不審者の侵入を想定した避難訓練や安全指導
- キ 消防署と連携した避難訓練

(4) キャリア教育・進路指導

- ア 「キャリア・パスポート」の作成・活用による、9年間を見通した系統的な指導
- イ 職場体験等による、自己と社会の双方についての多様な気付きや発見を促す指導
- ウ 入学当初からの計画的・継続的なキャリア・カウンセリング

(5) 特別支援教育

- ア 特別支援部を中心とした特別支援教室巡回指導教師と通常の学級の教師との連携促進
- イ 個別指導計画および学校生活支援シートの作成・活用による教育ニーズを踏まえた対応

- ウ 特別支援教室で学んだことの通常の学級での般化
- エ 巡回相談など、医療や福祉、教育の関係機関との積極的な連携
- オ 交流および共同学習を通じた、固定学級の生徒への正しい理解と認識の深化促進、ICTの活用

(6) 新たな感染症や災害の発生等に伴う対応

- ア 新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、ピンチはチャンスと捉えて危機管理体制を見直し、強化する機会とする。
- イ その都度、早急に対応案を作成し、市教育委員会および各小・中学校と連携を図る。また、保護者および地域住民に対し、学校だより等を通して学校の方針等を適時適切に説明し、理解・協力を得る。
- ウ 感染症に対する偏見や差別、誹謗中傷等を許さず、いじめ問題等を防止する。
- エ やむを得ず臨時休業等を行う場合、生徒の学びを保障し、心のケアや虐待の防止を図るため、次の方策を講じる。
 - ・ICTを活用した遠隔・オンライン教育
 - ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフや、子ども家庭支援センター、児童相談所等の関係機関との連携
- オ 学校再開に当たっては、長期休業期間の短縮、土曜授業および水曜6時間授業の実施、学校行事の精選等により授業時数を確保することで、学習指導要領にある各教科の内容を確実に指導する体制を整備する。

7 副校長および分掌主任がリードする、学校経営計画の着実な実施

- ◆ 学校経営計画を着実に実施し、校長が描く目指す学校像を実現するためには、副校長のリーダーシップの下、所属教師の協働体制を確立することが重要である。体制づくりに必要なのは、目標への意思の統合と、そのためのコミュニケーションの活性化である。
- ◆ まず、副校長が学校経営計画の中から当該年度に重点的に取り組むべき事項とその達成目標を一覧にした「重点項目整理表」を作成する。作成に当たり、副校長は校長とのやりとりを重ねるため、校長の意向をより深く理解するようになる。
- ◆ 次に、副校長は「重点項目整理表」に基づき、当該の分掌主任に対して、具体の教育活動の策定に関する指導・助言を行う。
- ◆ 主任は分掌内の担当教師に「課題別カード」の作成を指示する。「課題別カード」には、学校経営計画の実現に向け、各分掌が取り組む具体の教育活動の計画を記載する。主任はその作成過程を見守り、相談に乗る、援助する、課題を与える等の育成の手法を使い分け、担当教師の資質・能力を高めていく。

◆ 教育活動の実施に当たり、主任は「課題別カード」を用いて担当教師と適宜協議を重ね、職務の進捗状況や当面の課題を確認した上で、必要な助言を行う。教育活動が終了したら、年度末を待たずに評価を行い、達成できなかった事項について、各担当教師と共に原因を究明し、次年度の改善につなげる。

◆ 「重点項目整理表」と「課題別カード」は、目標達成に向けたコミュニケーションツールである。両資料を作成・活用する過程で、教師の意思は学校経営計画の実現に向け統合されていく。管理職相互、管理職と分掌主任、主任と担当教師との双方向のやりとりは活発になり、若手をはじめ多くの教師の学校経営への参画意識が高まる。

8 中期経営課題、今年度の重点および成果の検証

(1) 中期経営課題

ア 学力向上

- (ア) 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成
- (イ) 主体的・対話的で深い学びの追究
- (ウ) 学習習慣の確立

イ 健全育成

- (ア) いじめ問題への対応
- (イ) 不登校の問題への対応
- (ウ) 社会において自立的に生きる力の育成

ウ 組織運営・人材育成

- (ア) 目標への意思の統合
- (イ) 計画的な人材育成
- (ウ) 効率的・効果的な組織運営

(2) 年度ごとの重点および成果の主な検証方法

< >内は、検証の主な内容・方法等

ア 学力向上

(ア) 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成

① 言語能力

- a 朝読書の充実 <朝読書の観察(随時)>
- b メモや原稿に頼らない話す力の育成 <各種朝礼等の発表の観察>

② 情報活用能力

- a 受信・分析、まとめ、相互発信のある授業創造 <授業観察(全教員、年3回)>

③ 問題発見・解決能力

- a 問題解決的な授業創造 <授業観察(全教員、年3回)>
- b 体育大会や合唱祭、各種校外学習の実行委員会活動 <活動状況の観察>

(イ) 主体的・対話的で深い学びの追究

- ① 「授業PRカード」を活用した授業創造 <授業観察（全教員、年3回）>
- ② ICTを効果的に活用した授業創造 <全教師1回の公開授業の状況>

(ウ) 学習習慣の確立

- ① 「家庭学習ノート」等による学習支援 <「家庭学習ノート」等の提出状況・内容>

イ 健全育成

(ア) いじめ問題への対応

- ① 未然防止に向けた取組 <週ごとの学校いじめ対策委員会での報告・協議>

(イ) 不登校の問題への対応

- ① 継続している不登校の解消および新たな不登校を生まない取組
<市の登校支援室・ふれあい教室、本校の保健室・サポート教室の利用状況等>

(ウ) 社会において自立的に生きる力の育成

- ① 学校・家庭・地域で取り組む道徳教育の充実
 - a 望ましい習慣の形成 <小中一貫の日の協議、道徳授業地区公開講座の意見交換>
 - b 「3ない」運動の推進 <各種生徒会活動等>
 - c 生命尊重に関する指導の充実 <「命の週間」の取組状況>

ウ 組織運営・人材育成

(ア) 目標への意思の統合

- ① 「学校のランドデザイン」に基づく資質・能力の育成
<各種行事等の事後アンケートによる評価・改善>
- ② 「言葉の力」を中核とした学校づくりの推進
<教師の丁寧な言葉遣い・生徒の共感を呼び、意欲を高める言葉がけ>
「いつでも誰にでも相談週間」を「言葉の力週間」と位置付け、教師による丁寧な言葉遣いと、生徒の共感を呼び、意欲を高める言葉がけをより徹底する。

(イ) 計画的な人材育成

- ① 運営委員会だよりを活用した「ユニット研修」（10分以内の研修の蓄積）の実施
<「ユニット研修」の実施状況>
- ② 組織的・計画的なOJTの実施 <若手教師対象のOJTの実施状況>

(ウ) 効率的・効果的な組織運営

- ① 「職朝シート」を活用した日々の幹部会・職員打合せによる情報の共有と迅速な対応
<生徒情報の共有・課題の解決状況>
- ② 提案資料のポイント明示および説明の簡素化による会議の効率アップ
<資料への下線の記入状況・提案状況>